

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間育成学Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
医療人としてのあり方や作業療法の役割・知識や技術について理解を深めていく。またグループ学習をとおして、個人の課題を見つけていく。				
授業終了時の到達目標				
学習課題を認識し、その課題に取り組むことができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく指導する。		
時間外に必要な学修				
自己課題を見つける				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	ねらい 到達目標		
2	臨床で役立つコミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル		
3	臨床で役立つコミュニケーションスキル	会話・話題・答え方		
4	臨床で役立つコミュニケーションスキル	事例検討		
5	臨床で役立つコミュニケーションスキル	社会人マナー		
6	伝える	課題発表		
7	伝える	課題発表		
8	伝える	課題発表		
9	伝える	課題発表		
10	伝える	課題発表		
11	実習にむけて	客観的臨床能力		
12	実習にむけて	客観的臨床能力		
13	実習にむけて	客観的臨床能力		
14	1年生と合同授業	1年生との交流		
15	まとめ	自己課題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動生理学Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
運動と体温調節、運動と栄養など「運動」が身体に及ぼす影響について学ぶ。 また、疾病予防やQOL(生活の質、人生の質)の向上につなげるための知見を習得する。				
授業終了時の到達目標				
学習内容に記す各項目の理解を深め、他者にその説明ができる。 事例に対する運動処方立案ができるようになる。 定期試験において6割以上の正答。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの作業療法でのEBM、インフォームドコンセント時に対象者へ行ったことに基づき、学生指導を行う。		
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要の説明 運動生理学Ⅰの復習	授業の進行について、成績評価について 運動生理学Ⅰの復習を国家試験過去問題を解いて行う。		
2	運動と体温調節 1	熱の移動、体温調節の仕組み		
3	運動と体温調節 2	運動時の体温調節、運動と熱中症		
4	運動と栄養 1	栄養素、糖質、脂質		
5	運動と栄養 2	タンパク質、微量栄養素(ビタミン、ミネラル)		
6	運動と栄養 3	水、スポーツ選手のための食事		
7	身体組成と肥満 1	脂肪と除脂肪、体脂肪率の評価法		
8	身体組成と肥満 2	肥満の判定、肥満のタイプ、最低体重		
9	運動処方 1	運動処方とは、健康と体力		
10	運動処方 2	運動の備えるべき条件、運動処方の実際		
11	運動処方 3	事例検討(運動処方の作成)		
12	運動と生活習慣病 1	生活習慣病とは、生活習慣病の特徴		
13	運動と生活習慣病 2	運動の効果		
14	老化に伴う身体機能の変化 1	筋機能の変化、持久力の変化		
15	老化に伴う身体機能の変化 2 まとめ	高齢者のトレーナビリティ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
入門運動生理学(杏林書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床心理学		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	福田 琴
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理分野の疾患の理解。</li> <li>各疾患の治療法を学ぶ。</li> <li>自分たちの職種が出来る範囲のことを知る。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理分野の疾患を理解する。</li> <li>各疾患の治療法を理解する。</li> <li>自分たちの職種で出来る各疾患の治療を学ぶと共に、自分で考える。</li> </ul>				
時間外に必要な学修				
授業前に教科書、配布資料を確認しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史 各種心理テストの概略 など		
2	神経症 1 (不安障害)	不安障害の種類 強迫性障害とパニック障害に対する暴露療法 など		
3	神経症 2 (身体表現性障害)	転換性障害のメカニズム 心気症と心身症の違い など		
4	神経症 3 (解離性障害) 適応障害	解離性障害の防衛メカニズム 離人症性障害の症状 など		
5	人格障害 1	各クラスターに属するパーソナリティ障害 など		
6	人格障害 2	パーソナリティ障害の合併 クラスターC (回避性パーソナリティ障害など)		
7	摂食障害 統合失調症について	神経性無食欲症、過食発作 統合失調症の概念、歴史、下位分類		
8	依存症 気分障害について	依存症の種類、依存と乱用の違い 双極性障害と大うつ病の違い、認知行動療法		
9	てんかん、睡眠障害 性障害について	てんかんの原因、発作の種類、脳波の特徴 睡眠・覚醒リズム障害の概要、性障害の分類		
10	子供の精神障害とその周辺について 1	精神遅滞と知能指数の関係、学習障害の種類 注意欠陥・多動性障害の原因と症状		
11	子供の精神障害とその周辺について 2	社会問題となった子供の異常の数々を知る。 児童虐待について		
12	老化とその障害 リラクゼーションについて	アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い 各種リラクゼーション法の概要		
13	精神療法 力動精神療法	フロイト精神分析、家族療法、集団療法 力動精神療法の流れ、自我心理学の概要		
14	認知行動療法 支持療法	認知行動療法の概要、ベックの方法論 支持療法の歴史、心理療法的アプローチ		
15	薬物療法 セルフアセスメント	薬物の種類と副作用、脳内ホルモンの働き 臨床心理学全体の総括		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・PT・OT 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 (医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	瀬尾 憲正、河合 公三
授業の概要				
内科学について、リハビリテーションに関わりの深い内容を中心に必要かつ十分な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病態、検査、治療という疾患理解と、からだの構造と機能の関連を理解する。</li> <li>・解剖・生理・疾患から基礎的な知識を身につける。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		瀬尾 憲正・河合 公三：医師として5年以上の実務経験 日常診療での各疾患の治療体系とリハ業務との接点を交えながら進める。		
時間外に必要な学修				
解剖学・生理学を復習しておくこと。				
回	テーマ		内容	
1	呼吸器疾患 1		解剖と生理、症候、呼吸器診察、呼吸機能検査、画像検査について	
2	呼吸器疾患 2		呼吸不全、呼吸器感染症、免疫・アレルギー性肺疾患について	
3	呼吸器疾患 3		間質性肺疾患、閉塞性肺疾患、肺腫瘍、肺について	
4	呼吸器疾患 4		循環障害、換気異常、胸膜疾患、縦隔疾患、胸部外傷、その他の呼吸器疾患、呼吸管理とその他の治療	
5	免疫・膠原病・感染症 1		免疫総論と免疫異常について	
6	免疫・膠原病・感染症 2		膠原病総論・膠原病について	
7	免疫・膠原病・感染症 3		感染症総論・細菌感染症について	
8	免疫・膠原病・感染症 4		ウイルス感染症・真菌感染症・寄生虫感染症について	
9	脳・神経疾患 1		神経系の構造と機能、脳動脈と脳血管障害について	
10	脳・神経疾患 2		脳血管障害に関わる病態、脳血管の後遺症、脳静脈・髄液循環とその障害、運動・感覚・自律神経について	
11	脳・神経疾患 3		神経・筋の異常、脱髄疾患～Lennox-Gastaut症候群について	
12	脳・神経疾患 4		神経・筋の異常、頭痛～Wernicke脳症について	
13	腎臓疾患 1		解剖、検査、処置、症候、腎臓の機能、体液と浸透圧、水・ナトリウム代謝、カリウム代謝、Ca/P/Mg代謝、酸塩基平衡、輸液療法	
14	腎臓疾患 2		腎疾患総論、糸球体疾患、腎血管系の疾患、全身疾患に伴う腎障害、腎不全、腎代替療法	
15	まとめ		各分野の最近の知見、平均寿命、死因に関する分野についての絞りを絞り、問題点をあげて教育する	
教科書・教材			評価基準	評価率
・病気がみえる Vol.4 呼吸器 ほか			期末試験	100%
				その他

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷野 善彦、中内 英樹
授業の概要				
整形外科の一般的疾患について病態と治療について解説する。				
授業終了時の到達目標				
整形外科の一般的疾患に対する診断法と治療法を理解し、保存療法やリハビリテーションの実施に役立てることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		谷野 善彦: 医師として5年以上の実務経験 日常診療と外科的手術の経験談を交えながら授業を展開する。 中内 英樹: 理学療法士として5年以上の実務経験 手術後療法、保存療法の経験談を交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
前回の配布資料や授業内容を振り返りポイントを復習する。				
回	テーマ	内容		
1	リウマチ 1 (総論、内科的治療、外科的治療)	関節リウマチの基礎、臨床、治療の実際: 変形の特徴、診断方法、診断基準①		
2	リウマチ 2 (総論、内科的治療、外科的治療)	関節リウマチの基礎、臨床、治療の実際: 変形の特徴、診断方法、診断基準②		
3	リウマチ 3 (総論、内科的治療、外科的治療)	関節リウマチの基礎、臨床、治療の実際: 治療と考え方		
4	肩関節	肩関節疾患の解剖とその病態		
5	肘関節	肘関節の解剖学的特徴、臨床像、画像診断、合併症		
6	手関節と手の疾患 1	手関節、手の解剖学的特徴、臨床像、画像診断、合併症		
7	手関節と手の疾患 2	靭帯損傷に伴う合併症、靭帯、兼の働き		
8	末梢神経損傷、スポーツ損傷	障害の特徴と臨床像、画像診断、合併症		
9	スポーツ損傷、代謝性骨疾患	スポーツ損傷と障害、代謝性骨疾患に伴う合併症、神経損傷分類、特有の疾患名		
10	骨腫瘍	骨腫瘍の特徴、臨床像、画像診断、合併症		
11	先天異常症候群	先天性疾患の疾患名、合併症、整形外科の総合判断		
12	脊椎・脊髄疾患	脊柱の構造(復習)、脊椎・脊髄疾患の種類		
13	脊柱管狭窄症	脊柱管狭窄症を引き起こす疾患		
14	頸椎症性脊椎症神経根症 ミエロパチー	頸椎症性脊椎症神経根症の診療 ミエロパチーの診療		
15	腰椎椎間板ヘルニア 頸椎症性脊椎症神経根症	腰椎椎間板ヘルニアの診療 頸椎症性脊椎症神経根症、ミエロパチーの国試問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法 ナビゲーション 上肢・体幹 (メジカルビュー社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	土居 智和
授業の概要				
神経内科学においては、解剖学などの基本的医学知識に基づき、それぞれの疾患の病因や臨床症状、治療などについての理解度を深めることを目的とする。				
授業終了時の到達目標				
神経系のはたらきや役割、機能について理解する。さらにこれを基礎として、各種神経疾患の症状や治療法、予後に至るまでについて考察できる知識を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		医師として5年以上の実務経験 日常診療での各疾患の特徴を経験談を交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
前回の配布資料を振り返りポイントを復習する。				
回	テーマ	内 容		
1	神経系の構造と機能障害	ニューロンとグリア細胞 運動の異常、感覚の異常		
2	診察と検査	自律神経の異常、診察と検査		
3	脱髄性疾患 1	脱髄疾患総論、多発性硬化症		
4	脱髄性疾患 2	視神経脊髄炎、急性散在性脳脊髄炎		
5	末梢神経障害 1	末梢神経疾患総論		
6	末梢神経障害 2	Guillan-Barre症候群、Fisher症候群、CIDP		
7	末梢神経障害 3	Charcot-marie-Tooth病、家族性アミロイドニューロパチー 糖尿病性ニューロパチー、Bell麻痺		
8	神経変性疾患 1	神経変性疾患総論 Parkinson病、線条体黒質変性症、進行性核上性麻痺		
9	神経変性疾患 2	Huntington病、脊髄小脳変性症		
10	神経変性疾患 3	筋萎縮性側索硬化症、亜急性脊髄連合変性症		
11	神経変性疾患 4	脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症		
12	筋疾患 1	筋疾患総論、筋ジストロフィー		
13	筋疾患 2	ミトコンドリア脳筋症、周期性四肢麻痺 多発性筋炎、皮膚筋炎		
14	神経接合部疾患 1	神経接合部疾患総論		
15	神経接合部疾患 2	重症筋無力症、Lambert-Eaton症候群		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・病気が見えるvol.7 脳・神経 (メディックメディア)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
脳神経外科学		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	四宮 あや
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳・神経の構造や生理およびその病態と検査法や治療法について理解を深めるとともに脳神経分野における代表的な疾患に対する知識を習得する。</li> <li>・授業内容に関する小テストを実施し、授業内容に対する習得度を評価する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳・神経の構造や生理、病態生理、診断、検査、治療法等の基本的知識を習得し、他者に説明することができる。</li> <li>・授業で紹介する代表的な疾患について、その原因や症状、治療法などの知識を習得する。</li> <li>・授業毎に行われる小テストで7割以上正答できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		医師として5年以上の実務経験 日常診療と外科的手術の経験談を交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
前回の配布資料を振り返りポイントを復習する。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	脳神経外科学の概論、脳神経機能、能力障害に対する評価概論		
2	脳神経解剖学概論 1	大脳皮質の神経機能解剖学		
3	脳神経解剖学概論 2	大脳基底核、間脳、小脳、脳幹の神経機能解剖学		
4	脳神経解剖学概論 3	脳神経の機能解剖学、脊髄神経機能解剖学、脳・脊髄血管解剖学		
5	脳神経疾患に対する評価 診断、治療	脳、脊髄、末梢神経疾患の特徴的な訴えと症状		
6	脳・脊髄・末梢神経の検査	画像検査や生理的検査の見方		
7	治療概論	脳神経外科的疾患に対する治療の概念		
8	脳腫瘍	頭蓋内に発生する腫瘍の概説		
9	脳血管障害 1	虚血性脳血管障害の種類とその特徴、リスク、症状の特徴		
10	脳血管障害 2	出血性脳血管障害の種類とその特徴、リスク、症状の特徴		
11	頭部外傷概論	外傷の初期評価と初期対応、交通外傷、高齢者・小児の頭部外傷		
12	小児脳神経外科疾患概論	中枢神経の発生、神経系における先天性疾患・小児脳神経外科が扱う疾患		
13	脊椎・脊髄疾患概論	脊椎・脊髄の神経解剖と代表的な疾患		
14	機能的脳神経外科・脳神経感染症概論	知っておきたい脳神経の機能的疾患や手術について		
15	末梢神経疾患概論	末梢神経疾患について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気が見えるVol.7 脳・神経(メディックメディア)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	嶋 宏美
授業の概要				
現代の精神医学の基礎について、OT、PTの日常業務に役立てられるように学んでもらう。 国家試験に準拠した内容を十分に理解して、日常業務に役立ててもらおう。				
授業終了時の到達目標				
精神医学概論から症状論、リエゾン精神医学などを中心に理解し、さらにリハビリテーション医学の役割、位置づけも理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		医師として5年以上の実務経験 精神症状の具体例や患者様の表出方法等を診療経験談を交えながら説明する。		
時間外に必要な学修				
授業前に教科書を事前に確認しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	第10章 気分(感情)障害	気分(感情)障害とは、うつ病、躁うつ病、持続性気分障害など		
2	第11章 神経症性障害	神経症性障害のとらえ方、不安及び恐怖を中心とする神経障害、強迫を中心とする神経障害 など		
3	第12章 生理的障害及び身体的要因に関連した障害	摂食障害、非器質性の精神障害、性関連障害 など		
4	第10章から第12章までの復習	小テストと解答解説		
5	第13章 成人の人格・行動・性の障害	パーソナリティの障害、行動の障害、性の障害 など		
6	第14章 精神遅滞	精神遅滞とは、頻度の高い精神遅滞、精神遅滞の医療 など		
7	精神遅滞とは、頻度の高い精神遅滞、精神遅滞の医療 など	心理的発達の障害、特異的発達障害、広汎性発達障害		
8	第16章 リエゾン精神医学	コンサルテーション・リエゾン精神医学とは		
9	第13章から第16章までの復習	小テストと解答解説		
10	第17章 心身医学	心身医学の概念、心身症とは、心身症の診断と治療		
11	第18章 ライフサイクルにおける精神医学 1	ライフサイクルと年代の区分、小児期・青年期の精神障害		
12	第18章 ライフサイクルにおける精神医学 2	小児期・青年期の精神障害から不登校まで		
13	第19章 精神障害の治療とリハビリテーション	精神障害の治療とリハビリテーションとは		
14	第20章 精神保健医療と福祉、職業リハビリテーション	精神障害者の処遇および医療の歴史、精神保健福祉法の主な内容、障害者総合支援法の主な内容 など		
15	第21章 社会・文化とメンタルヘルス	精神の病と社会の関係、学校におけるメンタルヘルス、職場のメンタルヘルス、家庭のメンタルヘルス など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門分野 精神医学 第2版 (医学書院)		期末試験 確認テスト	55% 45%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
老年学		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深めていく。</li> <li>・老化にともなう生じる障害や病態について理解を深める。</li> <li>・高齢障害者における作業療法士の役割を考えていく。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老化についてのメカニズムを理解する。</li> <li>・老年期の身体的変化、精神的変化を理解する。</li> <li>・高齢者の特有な疾病について理解する。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの高齢期領域の作業療法実践を活かして授業を進めていく。		
時間外に必要な学修				
該当範囲の教科書の確認と、解剖学・運動学・生理学等の復習をしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	加齢と老化1	1、老化と老年病の考え方 2、加齢に伴う変化(生理機能)		
2	加齢と老化2	3、加齢に伴う変化(運動機能・精神心理面)		
3	高齢者へのアプローチ	1、高齢者の定義 2、高齢者の接し方・評価 3、高齢者と薬物療法		
4	老年症候群 1	高齢者に多い症候と老年症候群 1		
5	老年症候群 2	高齢者に多い症候と老年症候群 2		
6	循環器疾患	1、高齢者の循環器疾患の特徴 2、リハビリテーション		
7	呼吸器疾患	1、高齢者の呼吸器疾患の特徴 2、リハビリテーション		
8	骨・運動器疾患	1、高齢者の骨粗鬆症と運動器疾患の特徴 2、リハビリテーション		
9	神経疾患 1	1、高齢者の脳血管疾患の特徴 2、パーキンソン病の特徴		
10	神経疾患 2	1、認知症 2、うつ		
11	神経疾患 3	認知症のリハビリテーション		
12	高齢者の嚥下・排泄	1、高齢者の嚥下機能 2、高齢者の排泄機能		
13	感染症・リスク	1、感染症 2、リスク管理		
14	高齢者を取り巻く環境 1	1、サクセスフルエイジング 2、高齢社会の動向 3、高齢者の退院支援 4、高齢者の在宅医療		
15	高齢者を取り巻く環境 2 まとめ	1、介護と虐待問題 2、終末期 3、まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 老年学 (医学書院)		期末試験 課題・レポート	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
作業療法理論に基づいた評価や解釈の方法を学び、治療に結び付けていく				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法理論の理解を深め、目的に応じた評価をする事が出来る。</li> <li>・作業の重要性と作業療法の独自性を理解し、示していく事が出来る</li> <li>・作業療法理論を実際に活用する事が出来る</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
授業内容の振り返りと課題実施。				
回	テーマ	内 容		
1	作業療法の歴史・作業療法の理論	1、作業療法の歴史 2、作業療法における理論 課題提示①		
2	作業科学 (OS) 1	1、作業科学の概要 1 課題提示②		
3	作業科学 (OS) 2	1、作業科学の概要 2		
4	作業科学 (OS) 3	1、作業科学の概要 3 2、事例紹介		
5	クライアント中心の作業療法 カナダモデル (CMOP-E) 1	1、クライアント中心の実践とは 2、理論の概要		
6	クライアント中心の作業療法 カナダモデル (CMOP-E) 2	3、COPMの枠組み 4、課題提示③		
7	クライアント中心の作業療法 カナダモデル (CMOP-E) 3	5、カナダ実践プロセスの枠組み 6、事例検討		
8	ADOC 作業介入プロセスモデル (OTIPM)	1、ADOCの概要 2、AMPSの概要		
9	作業介入プロセスモデル (OTIPM) 2	3、課題提示④、実習 4、発表と事例検討		
10	作業介入プロセスモデル (OTIPM) 3	5、作業介入プロセスモデル (OTIPM)		
11	人間作業モデル (MOHO) 1	1、MOHOの枠組み 2、課題提示⑤		
12	人間作業モデル (MOHO) 2	3、MOHOの代表的な評価法 4、課題提示⑥		
13	人間作業モデル (MOHO) 3	5、事例検討 1		
14	人間作業モデル (MOHO) 4	6、事例検討 2		
15	クライアント中心の実践とリーズニング	1、クライアント中心の実践 2、作業焦点と作業基盤 3、OTのキャッチフレーズ 課題提示⑦		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド 吉川ひろみ著 (医学書院) 他、資料		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学実習 I		作業療法学科/2年	2020/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
作業活動の手順、道具の使用や管理方法など、実習を通して基本的な知識と技術を学ぶ。また分析を通して作業活動の使い方やその作業活動に必要な機能を確認し、治療手段として活用するときの指導方法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
実習を通して、臨床場面に応用するための考察ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
作業分析レポートの書き方など文章能力の向上を各自予習として行う。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション、分析	前期講義の内容・レポート作成に関する説明		
2	タイルモザイク	タイルモザイクの予習、道具の説明		
3	タイルモザイク	作業活動実践		
4	タイルモザイク	作業活動実践		
5	タイルモザイク	作業活動実践		
6	タイルモザイク分析	包括的作業活動分析		
7	園芸活動	園芸療法の基礎		
8	園芸活動	作業活動実践		
9	園芸活動	作業活動実践		
10	園芸活動	作業活動実践		
11	陶芸活動	陶芸の説明、計画立案		
12	陶芸活動	作業活動実践		
13	陶芸活動	作業活動実践		
14	軽作業活動体験	作業活動実践		
15	軽作業活動分析・レポート作成	即時作業分析		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・作業療法学全書改訂第2版 第2巻 基礎作業学(協同医書出版) ・作業—その治療的応用 改訂第2版(協同医書出版)		課題・レポート	100%	授業は実技形式にて作業活動を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学実習Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
革細工、木工作業の実技を通じて身体面・精神面・社会面・生活面の関係性を知り、他者に説明する事ができる。 作業療法の治療手段として、各作業の目的や特徴を理解して実施する事ができる。				
授業終了時の到達目標				
作業を通じて対象者に対する評価や分析を行うことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして作業分析について指導する		
時間外に必要な学修				
作業分析についてまとめる。 作業ごとに作業分析と段階付け、リスク管理などをまとめてレポートして提出する				
回	テーマ	内容		
1	木工作業 ①	木工用具説明 図面作成		
2	木工作業 ②	面取り作業 作品制作		
3	木工作業 ③	作品制作		
4	木工作業 ④	作品制作		
5	木工作業 ⑤ レポート作成(木工運動分析)	仕上げ・ニス塗り作業 作業分析レポート作成(活動、作業分析レポート)		
6	革細工 ① コースター作成 1	革細工における皮・道具・工程の説明 カーヴェリング、モデリング、スタンピングの説明・実施		
7	革細工 ② コースター作成 2	コースター作成: 裁断、デザイン転写、スタンピング作業 染色		
8	革細工 ③ コースター作成 3 作業分析レポート作成《コース	コースター作成: 裏張り・仕上げ剤 レポート作成		
9	革細工 ④ 小銭入れ作成 1	小銭入れ作成: 裁断、デザイン転写		
10	革細工 ⑤ 小銭入れ作成 2	小銭入れ作成: スタンピング作業、染色		
11	革細工 ⑥ 小銭入れ作成 3	小銭入れ作成: 裏張り・仕上げ剤・穴あけ・金具付け		
12	革細工 ⑦ 小銭入れ作成 4	小銭入れ作成: レーシング		
13	革細工 ⑧ 小銭入れ作成 5 作業分析レポート(小銭入れ)	小銭入れ作成: 最終仕上げ 作業分析レポート作成(活動分析レポート)		
14	軽作業活動体験	季節ごとのカレンダー作成		
15	軽作業活動分析 軽作業レポート作成	軽作業活動における即時作業分析		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布 作業療法学全書改訂第2版 第2巻 基礎作業学(協同医書出版)		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学実習Ⅲ		作業療法学科/2年	2020/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法の治療手段としてのレクリエーションの目的や特徴を理解して実施する。</li> <li>・作業療法の臨床で用いられる作業を用いて、工程、用具、治療的応用、管理を実習する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
作業療法士が行う治療的レクリエーションの概念を概観し、知識と技術、そして指導法の理解をする。クラスメイトを対象に、レクリエーションの企画・運営を行う。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 通所リハビリテーションでもレクリエーション等の作業経験を活かし、学生の指導を行う。		
時間外に必要な学修				
レクリエーションの実践は、グループ内での役割や物品などの準備を事前にしっかり行うこと。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要 レクリエーションの概要説明	レクリエーションの基本的考え方の理解 計画・企画書について、スタッフの役割		
2	レクリエーションの特徴・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各特徴(身体活動、音楽、行事、調理)</li> <li>・評価の視点</li> </ul>		
3	レクリエーション実践と振り返り 1	準備体操の目的とバリエーション		
4	レクリエーション実践と振り返り 2	身体活動レクリエーションと振り返り		
5	レクリエーション実践と振り返り 3	調理レクリエーションと振り返り		
6	レクリエーション実践と振り返り 4	行事レクリエーションと振り返り		
7	レクリエーション企画 1	学生主体によるレクの企画・準備		
8	レクリエーション企画 2	学生主体によるレクの企画・準備		
9	レクリエーション運営 1	学生主体によるレクの実施と振り返り		
10	レクリエーション運営 2	学生主体によるレクの実施と振り返り		
11	レクリエーション運営 3	学生主体によるレクの実施と振り返り		
12	レクリエーション運営 4	学生主体によるレクの実施と振り返り		
13	レクリエーション振り返り 1	レクリエーションの振り返りと疾患を想定した今後の企画・運営についてまとめ		
14	レクリエーション振り返り 2	レクリエーションの振り返りと疾患を想定した今後の企画・運営についてまとめ		
15	発表 まとめ	振り返り課題の発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
レクリエーション 改訂第2版 社会参加を促す治療的レクリエーション (三輪書店)		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学実習Ⅳ		作業療法学科/2年	2020/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法を学び、計画、準備、各作業の分析を行い、指導の実践を行う。</li> <li>・アクティビティを選択し指導する中で、対象者への適応、指導時のポイントを整理する。</li> <li>・活動・参加を意識した作業の提供と、障害にあわせた用い方・工夫を検討する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
各自で役割・責任を持って指導計画し、準備、各作業工程の理解、指導が行えるようになる。指導前の準備と指導時の臨機応変な対応が行えるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院での作業療法経験を活かし、学生の指導を行う。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に指導を行う際の方法をイメージし練習を行う。</li> <li>・課題への準備を行う。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	講義内容の説明(校外活動、グループ課題)について アクティビティの紹介		
2	指導法について	指導するにはどのような準備が必要か考える 手工芸実施し、準備・指導について検討		
3	指導計画	指導を担当する種目を決め、事前準備、計画を行う レポートの書き方について		
4	指導準備	校外活動の計画を持ち寄り、事前打ち合わせを行う		
5	模擬的な指導の実践	校外活動で行う指導を模擬的に行う。各グループでの振り返り。		
6	校外での指導実践1	校外にて作業活動の指導を行う		
7	校外での指導実践2	校外にて作業活動の指導を行う フィードバック		
8	指導後の振り返り	校外での指導について振り返りを行う		
9	グループ課題実施1	各グループごとに手工芸を選択し、指導計画、事前準備、 工程の分析、指導などを学ぶ		
10	グループ課題実施2	各グループごとに手工芸を選択し、指導計画、事前準備、 工程の分析、指導などを学ぶ		
11	グループ課題実施3	各グループごとに手工芸を選択し、指導計画、事前準備、 工程の分析、指導などを学ぶ		
12	グループ課題実施4	各グループごとに手工芸を選択し、指導計画、事前準備、 工程の分析、指導などを学ぶ		
13	障害者スポーツ1	障害者スポーツについて(作業との関連) 模擬的に体験		
14	障害者スポーツ2	障害者スポーツの実践		
15	障がい設定を行い、作品作り	障がい設定を行い、実施し班ごとに気づきの発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・作業療法学全書改訂第2版 第2巻 基礎作業学 (協同医書出版) ほか		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法評価学Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/前期	実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
高次脳機能障害の総論・各論について理解する。 評価法の選択～解釈の流れを理解する。				
授業終了時の到達目標				
各種評価法の使用目的を理解し、対象者の関わりにおいて適切に選択できる。 得られた結果と他の評価で得られた結果を統合・解釈することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、高次脳機能障害について指導する		
時間外に必要な学修				
次回の講義内容のテキストを確認しておく 小テストを行うことで復習する				
回	テーマ	内容		
1	高次脳機能障害とは(総論)	高次脳機能障害を脳解剖の視点で考える		
2	大脳の機能局在について	大脳皮質ならびに機能局在など基本的な機能を理解する		
3	半側空間無視	概要と評価の説明および実技		
4	記憶障害	概要と評価の説明および実技		
5	注意障害	概要と評価の説明および実技		
6	遂行機能障害	概要と評価の説明および実技		
7	失行・失認	概要と評価の説明および実技		
8	失語	概要と評価の説明		
9	認知症について	認知症(症状、分類)を理解する		
10	認知機能	概要と評価の説明および実技		
11	社会生活能力	概要と評価の説明および実技		
12	精神症状評価	概要と評価の説明および実技		
13	事例検討1	事例について検討する		
14	事例検討2	事例について検討する		
15	事例検討3	事例について検討する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
高次脳機能障害のリハビリテーション 実践的アプローチ(医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法評価学実習Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
1年次に学んだ関節可動域測定や徒手筋力検査などの身体機能面に対する検査測定の続きを行い、下記のテーマ・授業内容の項目の検査測定を正確に行う。				
授業終了時の到達目標				
各検査の目的・準備物・方法・記録の仕方、結果に対する解釈を説明することができ、正確な評価を行うことができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、評価の目的や技術について指導する		
時間外に必要な学修				
次回の講義範囲についてテキストを確認しておく 実技の小テストを行うため実技練習も行っておく				
回	テーマ	内容		
1	感覚検査 1	感覚検査 表在感覚の評価		
2	感覚検査 2	感覚検査 深部感覚 複合感覚の評価		
3	粗大筋力検査 (GMT)	MMTよりも簡易的に実施可能な筋力検査について		
4	バランス検査	バランス能力のみかた		
5	筋緊張検査	筋緊張のみかた 評価について		
6	姿勢調節	姿勢調整に必要な分析を行い評価を行っていく		
7	感覚検査・GMT・姿勢調節の復習	今までの復習を行うことで正確な評価を行う		
8	脳神経検査 1	第1脳神経～第12脳神経の検査方法と記録及び結果の解釈について実技を通して学ぶ		
9	小脳機能検査	四肢の運動失調、測定異常など		
10	片麻痺の回復段階	ブルンストローム法 上田の12グレード法		
11	上肢機能検査	S T E F・M F Tの評価		
12	評価の選択、計画について	評価を選択するポイントと評価計画の立案について		
13	事例検討 1	事例より検査測定の選択から実施できるようになる		
14	事例検討 2	事例より検査測定の選択から実施できるようになる		
15	まとめ	各評価の復習と確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院) 新・徒手筋力検査法(協同医書出版)ほか		実習・実技評価	100%	実技を中心に組み込む。実技の復習を行う。



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法評価学実習Ⅲ		作業療法学科/2年	2020/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
評価実習で経験した症例をもとに、評価の流れと評価の結果から見えてくる問題点を抽出する。対象者の問題点をICFの観点から捉え、全体像を把握していく。具体的な目標設定と治療プログラムを立案していく。				
授業終了時の到達目標				
情報収集から評価の結果を整理して、ICFに分類できる。問題点の抽出から全体像を把握し、対象者にあった目標設定と治療プログラムの立案ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、評価について指導する		
時間外に必要な学修				
評価実習にまとめたデイリーノートをもとにレポート作成していく 発表に必要なレジメを作成していく				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	評価実習の振り返り		
2	評価レポート作成の流れについて	評価レポートの作成の流れについて説明する		
3	情報収集について①	情報収集する項目の整理と意味を確認する		
4	情報収集について②	症例に必要な情報を整理し、足りない情報について確認する		
5	評価の選択について	評価の目的や意味を再復習し、適切な選択を行う		
6	評価の結果のまとめについて	実習で行った評価結果をまとめて、そこからみえる問題点を整理する		
7	評価実技の確認①	身体機能面の評価実技について復習を行う		
8	評価実技の確認②	精神機能面の評価について復習を行う		
9	基本動作の分析	寝返り、起き上がり、立ち上がりなどの基本動作を観察し、問題点を考える		
10	ADL動作の分析①	食事、更衣などのADL動作を観察し、問題点を考える		
11	ADL動作の分析②	排泄、入浴などのADL動作を確認し、問題点を考える		
12	ICFについて①	ICFについて理解を深める		
13	ICFについて②	症例の問題点をICFに分類し、否定的側面と肯定的側面について理解を深める		
14	問題点を抽出する	問題点を統合し、参加、活動の視点からまとめていく		

回	テーマ	内容		
15	目標設定について	目標設定の立案の仕方について理解する		
16	長期目標、短期目標の設定	長期目標、短期目標を設定していく		
17	治療プログラムの立案について	治療プログラムの立て方のポイントを理解する		
18	治療プログラムの立案	症例にあったプログラムを立案する。		
19	考察について①	全体像をとらえて目標やプログラムを立案した経緯をまとめていく		
20	考察について②	症例について考察していく		
21	考察について③	症例について考察していく		
22	レジメにまとめていく	考察できたレポートを発表用レジメにまとめていく		
23	症例発表①	レジメに沿って発表を行っていく 他の学生の発表を聞き、質問や考えを議論する		
24	症例発表②	レジメに沿って発表を行っていく 他の学生の発表を聞き、質問や考えを議論する		
25	症例発表③	レジメに沿って発表を行っていく 他の学生の発表を聞き、質問や考えを議論する		
26	症例発表④	レジメに沿って発表を行っていく 他の学生の発表を聞き、質問や考えを議論する		
27	発表の振り返り	発表をすることで理解できたことを振り返える		
28	再評価から再目標設定について	再評価から目標や治療プログラムを立案する流れを理解する		
29	評価から治療へ①	評価から治療へつなげていく流れや、考え方について理解する		
30	評価から治療へ②	評価から治療へつなげていく流れや、考え方について理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法評価応用学		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICFに対する理解を深め、活用する。</li> <li>・ 作業療法の過程とICFの関連性について理解する。</li> <li>・ 事例検討を通じて観察のポイント、考察の捉え方について理解する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICFの分類を理解でき、得られた情報を記入する事が出来る。</li> <li>・ 情報の優先順位をつけ、関連付けが出来る。</li> <li>・ 考察の書き方を習得する。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法の経験を活かして、OTプログラム立案について指導する。		
時間外に必要な学修				
配布したプリントを確認し、復習すること。				
回	テーマ	内容		
1	作業療法の流れ 1	基本的情報～目標・プログラム設定についての流れ		
2	作業療法の流れ 2	ICFについての理解、ICFコードについて		
3	作業療法の流れ 3	ICFの考え方・まとめ方		
4	作業療法の流れ 4	ICFから目標～プログラム設定		
5	作業療法の流れ 5	ICFを利用する際の疾患別の捉え方について		
6	文献の見方、調べ方 1	文献検索の目的、文献検索の方法		
7	文献の見方、調べ方 2	文献抄読【課題・発表】		
8	文献の見方、調べ方 3	文献抄読【課題・発表】		
9	記録	デイリーノート、ケースノート、SOAPの書き方		
10	【考察の捉え方】事例検討 1	グループワーク(意見交換、発表)		
11	【考察の捉え方】事例検討 2	グループワーク(意見交換、発表)		
12	【考察の捉え方】事例検討 3(身体障害)	情報呈示から観察の視点、評価選択、解釈 目標・プログラム設定、段階付け		
13	【考察の捉え方】事例検討 4(精神障害)	情報呈示から観察の視点、評価選択、解釈 目標・プログラム設定、段階付け		
14	レポート・レジユメの書き方	事例報告書(分野別)		
15	リハビリテーション総合実施計画書	リハビリテーション総合実施計画書について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体障害作業療法学 I		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
脳血管疾患に対する作業療法の基本的視点を説明し、臨床像を捉えて作業療法アプローチまでの一連の過程を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
脳血管疾患によって生じる症状の原因と臨床像を把握し、作業療法評価、アプローチについて他者に説明できることを目標とする。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの病院での経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業資料と教科書を照らし合わせながら復習しましょう。</li> <li>・ 片麻痺の方がどのように生活しているかイメージしながら過ごす時間をとってみましょう。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	脳血管障害とは何か	脳血管障害の分類・鑑別、原因		
2	脳血管障害の主症状について	運動障害、感覚障害、嚥下障害、運動失調 高次脳機能障害など		
3	大脳の機能解剖と脳画像のみかた1	脳の構造と機能を学ぶ意義、主要な脳血管の分布 前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉の違い		
4	大脳の機能解剖と脳画像のみかた2	主要な脳血管障害とCT・MRI画像 脳の機能局在、各スライスのみかた		
5	脳血管障害の生活行為について	ADL、IADLについて		
6	脳血管障害の作業療法評価	身体機能、精神・高次脳機能、ADLの評価 (観察、検査測定)		
7	急性期における作業療法	急性期の特徴と関わり 早期リハ、リスク管理、合併症予防		
8	回復期における作業療法	回復期の特徴と関わり ADL向上、チームアプローチ、自宅復帰		
9	生活期における作業療法	生活期の特徴と関わり MTDLP、介護保険でのリハ、廃用症候群の予防		
10	脳血管障害の上肢機能に対するアプローチ	上肢機能について 治療戦略について(CI療法、促通反復療法など)		
11	高次脳機能障害に対する作業療法1	注意障害、記憶障害の臨床像とアプローチ		
12	高次脳機能障害に対する作業療法2	左半側空間無視、失語症の臨床像とアプローチ		
13	高次脳機能障害に対する作業療法3	失行症、失認の臨床像とアプローチ		
14	脳血管障害の統合と解釈、目標設定	ICFやMTDLPに基づいた見方、目標設定		
15	脳血管障害の作業療法計画、アプローチ	目標に対する作業療法計画、アプローチについて考える		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 脳卒中(医歯薬出版)ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体障害作業療法学Ⅱ		作業療学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
解剖学、生理学的メカニズムなどの基本的知識を解説し、作業療法介入を学習。また作業療法がもつ独自の治療・訓練支援の特徴を理解する。				
授業終了時の到達目標				
各疾患に対する治療の実際について習得し、作業療法士としてのかかわりを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士としての5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
授業の振り返りを行う				
回	テーマ	内容		
1	腕神経叢損傷	腕神経叢の解剖、特徴 術式		
2	腕神経叢損傷	腕神経叢損傷の医療的治療と作業療法評価・療法		
3	腕神経叢損傷	機能再建術後の作業療法介入の進め方		
4	腱損傷	腱の基本的構造 腱の修復過程		
5	腱損傷	屈筋腱損傷の特徴 治癒過程と療法の流れ		
6	腱損傷	屈筋腱修復後のセラピー(事例検討)		
7	腱損傷	伸筋腱の特徴 伸筋腱に対するプロトコール		
8	関節症	母指CM関節症 変形性肘関節症		
9	疼痛に対する作業療法アプローチ	CRPS		
10	疼痛に対する作業療法アプローチ	介入方法		
11	骨折	骨折の基礎知識 人体解剖		
12	骨折	各骨折の復習 レントゲン交え症例紹介		
13	骨折	ロッキングプレート 評価の抽出と一般的な作業療法のながれと注意点		
14	骨折	症例紹介		
15	画像の診方 まとめ	画像の診方 まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・作業療法技術ガイド(文光堂) ・ハンドセラピー ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体障害作業療法学Ⅲ		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
ハンドセラピーに関する知識、各疾患に対する治療法・予後管理法などについての基本的知識を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドセラピーを臨床で実践するために必要な基礎知識を理解する</li> <li>・疾患について病態像を把握し、作業療法治療に適切に結びつけることができる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
授業内容の振り返りを行う				
回	テーマ	内容		
1	ハンドセラピー	ハンドセラピー概論 手の働きと知覚との関係		
2	ハンドセラピー	ハンドセラピー評価の各方法とその解釈の仕方		
3	ハンドセラピー	評価の復習 治療の実際		
4	ハンドセラピー	ハンドセラピープログラム		
5	末梢神経損傷	末梢神経概論		
6	末梢神経損傷	末梢神経の評価		
7	末梢神経損傷	末梢神経損傷の作業療法		
8	絞扼性神経障害	絞扼性神経障害に関する知識・評価・治療		
9	関節リウマチ	診断学・病態		
10	関節リウマチ	作業療法		
11	関節リウマチ	日常生活活動支援		
12	熱傷	熱傷の特徴		
13	熱傷	熱傷の問題点 評価		
14	熱傷	各時期のプログラム		
15	まとめ	理解度チェック		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法技術ガイド(文光堂)</li> <li>・ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)</li> <li>・ハンドセラピーシリーズ ほか</li> </ul>		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体障害作業療法学Ⅳ		作業療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
脊髄損傷その他の中枢性疾患および循環器疾患や呼吸器疾患などの内部障害に対する作業療法について学ぶ。また、評価を行いICFに基づき抽出した問題点解決に向けた治療、支援を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
脊髄損傷やその他中枢性の疾患、内部障害に対して、各疾患の機序・特徴を理解した上で、生活行為の向上に向けたプランを立案できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 リハ病院での作業療法経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習: 各疾患の基礎知識について、予め確認しておく。</li> <li>・復習: 配布資料を振り返り学習する。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	脊髄損傷とは	脊髄の解剖と病態生理 脊髄損傷の症状と診断		
2	脊髄損傷の症状と合併症	脊髄損傷高位と機能との関係、病変部位と麻痺、排尿障害・排便障害、合併症(骨萎縮、尿路感染症など)		
3	脊髄損傷の生活行為	各髄節レベルにおいて獲得可能とされる生活行為について		
4	脊髄損傷に対する作業療法評価	Frankel分類、ASIA機能障害尺度、Zancolli分類など		
5	脊髄損傷に対する作業療法プログラム	作業療法の基本的視点と介入のポイント		
6	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法1	病態・診断・病型・予後・合併症について ALSに対する作業療法評価、プログラム		
7	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法2	ICT機器、環境制御装置について 透明文字盤体験と意思伝達について		
8	脊髄小脳変性症に対する作業療法	主症状・重症度分類・作業療法評価・プログラムについて		
9	ギランバレー症候群・多発性筋炎に対する作業療法	主症状・作業療法評価・プログラムについて		
10	多発性硬化症に対する作業療法1	病理・発生メカニズム・作業療法評価について		
11	多発性硬化症に対する作業療法2	作業療法プログラムについて		
12	内部障害の作業療法(循環器)	疾患の理解と生活機能、OTの基本的視点と介入例		
13	内部障害の作業療法(呼吸器)	疾患の理解と生活機能、OTの基本的視点と介入例		
14	内部障害の作業療法(糖尿病)	疾患の理解と生活機能、OTの基本的視点と介入例		
15	内部障害の作業療法(がん)	疾患の理解と生活機能、OTの基本的視点と介入例		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法技術ガイドブック(文光堂)ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達障害作業療法学Ⅰ		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
発達障害の作業療法について学ぶ。 発達障害を捉える基礎とし、障害像を交えながら小児の正常発達について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
正常発達と反射の関連について理解できる。 小児の身体機能面・精神機能面の発達を理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験。 作業療法士としての経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
・予習：一年生の科目「人間発達学」の該当する項目を確認。 ・復習：配布資料をもとに振り返る。				
回	テーマ	内容		
1	発達障害に対する作業療法の概要	正常運動発達を学ぶことの意義 知的・認知・精神機能の障害についての概要		
2	姿勢・運動の障害を中心とする発達障害の概要	脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎など		
3	正常運動発達と反射 (階層性発達理論)	新生児期・乳児期に見られる反射の意義と見方		
4	原始反射・姿勢反射1	神経の発達よりみた反射の発達 脊髄レベル、脳幹レベルについて		
5	原始反射・姿勢反射2	神経の発達よりみた反射の発達 中脳レベル、大脳皮質レベルについて		
6	原始反射・姿勢反射3	神経の発達よりみた反射の発達を国家試験問題を通して学ぶ。		
7	正常運動発達1	腹臥位の発達について		
8	正常運動発達2	背臥位の発達について		
9	正常運動発達3	座位、立位の発達について		
10	「遊び」と目と手の協調の発達	手の働きと「目と手の協応」の発達 「遊び」の発達		
11	ADLの発達	ADLの発達の流れを理解する 遠城寺式乳幼児発達検査		
12	発達評価	発達領域における各種検査測定について		
13	発達と感覚1 (感覚統合療法について)	正常運動発達における感覚(触覚・前庭覚・固有覚)の重要性を知る		
14	発達と感覚2 (感覚統合療法について)	感覚統合療法について体験し、理解する		
15	障害児の保護者への子育て支援まとめ	保護者の子育て支援並びに支援制度まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる発達障害の作業療法(医歯薬出版)ほか		期末試験	100%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達障害作業療法学Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
135分	15回	2単位(45時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害作業療法学Ⅰで学んだ正常発達を基盤とし、疾患別の心身機能・構造をとらえ、評価及びアプローチを理解する。</li> <li>・発達障害の各疾患を身体的・社会的・発達の側面から捉え、問題点を評価し、治療計画及び治療手段を学習する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害の作業療法の役割を解説できる。</li> <li>・正常発達に関する知識の治療への応用について説明できる。</li> <li>・以下にあげる疾患の臨床像を捉え、評価及びアプローチを理解できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習: 事前に教科書に目を通しておく</li> <li>・復習: 配布資料を基に振り返りを行う</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	脳性麻痺 1	脳性麻痺の臨床像(CPの定義・原因・症状の推移、病形分類、障害分類)、合併症、医学的治療について		
2	脳性麻痺 2	痙直型脳性麻痺の特徴と作業療法評価		
3	脳性麻痺 3	痙直型脳性麻痺の作業療法プログラム		
4	脳性麻痺 4	アトローゼ型脳性麻痺の特徴と作業療法評価		
5	脳性麻痺 5	アトローゼ型脳性麻痺の作業療法プログラム		
6	重症心身障害児	重症心身障害児(者)の特徴と作業療法評価、プログラム		
7	筋ジストロフィー 1	筋ジストロフィーとは何か?(障害の原因) 筋ジストロフィーの臨床像(分類と特徴)、評価		
8	筋ジストロフィー 2	筋ジストロフィーに対する作業療法プログラム		
9	発達障害(狭義)の総論	自閉スペクトラム症、注意欠陥/多動症、学習症、発達性協調運動症の概要		
10	自閉スペクトラム症(ASD)	自閉スペクトラム症の特徴と作業療法		
11	注意欠陥/多動症(AD/HD)	注意欠陥/多動症(AD/HD)の特徴と作業療法		
12	学習症(LD)	学習障害(LD)の特徴と作業療法		
13	発達性協調運動症(DCD)	発達性協調運動症(DCD)の特徴と作業療法		
14	知的障害、ダウン症	知的障害、ダウン症の特徴と作業療法		
15	二分脊椎、分娩麻痺 まとめ	二分脊椎、分娩麻痺の特徴と作業療法 まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・イラストでわかる発達障害の作業療法 (医歯薬出版株式会社) ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神障害作業療法学Ⅰ		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害のリハビリテーションの流れを理解する。</li> <li>・精神障害作業療法の構造と形態を学び、作業療法の目的と役割を理解する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健領域における治療・援助の方法を述べる事ができる。</li> <li>・精神保健領域において作業療法の目的と手段、方法を説明できる。</li> <li>・精神保健領域において各職種役割を理解し協業する方法を述べる事ができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読んで、授業で説明した内容の振り返りを行う。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 基礎概念/精神科医療状況概論	授業概要の説明、精神障害作業療法の概要 精神科医療を取り巻く状況		
2	基礎概念/精神科医療状況概論	我が国の精神医療と精神科作業療法の歴史		
3	基礎概念/精神科領域での基礎理論 1	自己理解、精神分析学、来談者中心療法など		
4	基礎概念/精神科領域での基礎理論 2	認知行動療法		
5	基礎概念/精神科領域での基礎理論 3	SST、自律訓練法、感覚統合理論、薬物療法など		
6	評価学/評価の流れ	精神科領域での評価の特徴、評価手段の手順		
7	評価学/評価手段1	情報収集、観察、記録の仕方		
8	評価学/評価手段2	面接法、検査法		
9	評価学/評価手段3	興味チェックリスト、HTPテスト、COPMなど		
10	評価学/評価手段4	職業関連評価、社会機能評価など		
11	評価学/評価手段5	評価から治療目標設定、障害論(ICF)など		
12	評価学/事例検討	精神科作業療法、外来作業療法		
13	治療学1	治療過程と治療構造、治療的態度、関わり方 作業活動、集団、時間、頻度、場所		
14	治療学(治療・援助の場)2	精神科作業療法、外来作業療法 精神科デイ・ケア、ナイト・ケア、ショート・ケアほか		
15	治療学(治療・援助の場)3 精神障害作業療法学Ⅰの総まとめ	認知症治療病棟、精神保健福祉センター 作業所、グループホーム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ゴールドマスタテキスト・精神障害作業療法学 改訂第2版 (メジカルビュー社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神障害作業療法学Ⅱ		作業療学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	外部講師
授業の概要				
精神障害作業療法の対応・治療の基本を学び、臨床への応用の学びを深める。				
授業終了時の到達目標				
精神障害に対する作業療法の治療・援助について理解し、臨床で使える技能を身につける。				
時間外に必要な学修				
テキストを読んで、授業で説明した内容の振り返りを行う。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション 自己洞察	授業概要の説明 自分を知る、自分の性格傾向、態度		
2	治療学/治療過程と治療構造 1	治療過程とは、治療構造の設定、基本的な態度、関わり方		
3	治療学/治療過程と治療構造 2	作業活動、集団、時間、頻度、場所		
4	治療学/治療・援助の場 1	精神科作業療法、外来作業療法、精神科デイケア、など		
5	治療学/治療・援助の場 2	認知症治療病棟、精神保健福祉センター、作業所など		
6	治療学/状態別アプローチ 1	不安、無為・自閉、退行、妄想、うつ、躁		
7	治療学/状態別アプローチ 2	器質性精神障害、精神作用物質使用による精神および行動の障害		
8	治療学/状態別アプローチ 3	統合失調症 1		
9	治療学/状態別アプローチ 4	統合失調症 2		
10	治療学/状態別アプローチ 5	気分障害 1		
11	治療学/疾患別アプローチ 6	気分障害 2		
12	治療学/疾患別アプローチ 7	不安障害、摂食障害		
13	治療学/疾患別アプローチ 8	パーソナリティ障害		
14	治療学/疾患別アプローチ 9	てんかん、その他		
15	地域作業療法学	精神科訪問看護、ACT、就労支援など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ゴールドマスターテキスト・精神障害作業療法学(メジカルビュー社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神障害作業療法学Ⅲ		作業療法学科/2年	2020/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
135分	15回	2単位(45時間)	必須	外部講師
授業の概要				
事例検討を通じて、精神障害作業療法の対象者への作業療法サービス内容と基本的対応を身につける。				
授業終了時の到達目標				
各疾患について、その回復過程に応じた作業療法について説明できる。				
時間外に必要な学修				
テキストと配布プリントを読んで、予習復習に努めること。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	授業概要の説明 グループ分けと役割分担の確認、事例の読み合わせ		
2	事例検討(統合失調症) 1	統合失調症/評価・評価実技		
3	事例検討(統合失調症) 2	統合失調症/課題抽出、計画立案		
4	事例検討(統合失調症) 3	統合失調症/治療のデモ確認		
5	事例検討(統合失調症) 4	治療内容の紹介 1		
6	事例検討(統合失調症) 5	治療内容の紹介 2		
7	事例検討/気分障害 1	気分障害/評価・評価実技		
8	事例検討/気分障害 2	気分障害/課題抽出、計画立案		
9	事例検討/気分障害 3	治療内容の紹介 1		
10	事例検討/気分障害 4	治療内容の紹介 2		
11	事例検討/その他の疾患 1	パーソナリティ障害、摂食障害、てんかん、などの評価		
12	事例検討/その他の疾患 2	パーソナリティ障害、摂食障害、てんかん、などの課題抽出と計画書立案		
13	事例検討/その他の疾患 3	治療内容の紹介 1		
14	事例検討/その他の疾患 4	治療内容の紹介 2		
15	総まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ゴールドマスターテキスト・精神障害作業療法学(メジカルビュー社)プリント配布		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高齢期作業療法学		作業療学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
高齢者は老化現象によって様々な機能が変化していきます。しかしながら、障害を持っていても元気で有意義に暮らしている高齢者もたくさんいます。ここでは高齢者の特徴や環境、高齢障害者に対する作業療法を考えていきます。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の特徴を理解できる</li> <li>・ 高齢者の取り巻く環境や制度を理解できる</li> <li>・ 高齢期疾患における作業療法を理解できる</li> </ul>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの高齢期領域の作業療法実践を活かして授業を進めていく。			
時間外に必要な学修				
該当範囲の教科書や資料の確認と、老年学を復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	高齢社会について	ふりかえり、高齢者の動向		
2	高齢者の社会福祉制度	1、高齢者福祉制度の始まり・流れ 2、高齢期の作業療法		
3	病期・場所に応じた治療・援助内容の違い	1、急性期～終末期 2、一般病院～在宅		
4	高齢者の作業	高齢者を取り巻く作業 事例検討		
5	パーキンソン病の作業療法 1	1、病態生理の復習 2、リハビリテーション 1		
6	パーキンソン病の作業療法 2	2、リハビリテーション 2 3、事例検討		
7	認知症のある人の作業療法 1	1、認知症の分類・症状の復習 2、認知症のある人の評価 1		
8	認知症のある人の作業療法 2	2、認知症のある人の評価 2		
9	認知症のある人の作業療法 3	3、認知症のある人の作業療法 1		
10	認知症のある人の作業療法 4	3、認知症のある人の作業療法 2		
11	認知症のある人の作業療法 5	4、事例検討 1		
12	認知症のある人の作業療法 6	5、事例検討 2		
13	認知症のある人の作業療法 7	6、集団作業療法の実際		
14	高齢期における終末期	1、終末期の作業療法 2、事例		
15	健康な高齢者に関連するトピックスまとめ	高齢者に関連した最新の課題 まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学(医学書院)ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動学 I		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活活動に関係する作業の理解を深める。</li> <li>作業活動に求められる評価を評価学と関連付けて学んでいく。</li> <li>健常と障害の違いに対する理解を深める。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活動作における人の動きについて理解を深める。</li> <li>各動作の工程における観察ポイント、注意点について理解を深める。</li> <li>定義、概念、評価に対する理解を深める。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、日常生活活動に求められる要素について基本的な考え方を身につけられるよう指導していく。		
時間外に必要な学修				
日々の生活を構成する作業に注目し、他者と比較を行う				
回	テーマ	内容		
1	日常生活活動について	・ADLの分類      ・ADLの概念		
2	ADLとは1	食事活動の工程と観察ポイント・注意点		
3	ADLとは2	整容活動の工程と観察ポイント・注意点		
4	ADLとは3	更衣活動の工程と観察ポイント・注意点		
5	ADLとは4	排泄活動の工程と観察ポイント・注意点		
6	ADLとは5	入浴活動の工程と観察ポイント・注意点		
7	IADLとは	家事活動の特徴と観察ポイント・注意点		
8	領域別ADLの特徴	身体領域、精神領域、発達過程、高齢期、地域		
9	ADL評価の流れ	評価～治療の考え方		
10	ADL評価1	BI、FIM①		
11	ADL評価2	BI、FIM②		
12	ADL評価3	COPM		
13	基本動作について	起居・移動の工程と観察ポイントの復習		
14	疾患に応じたADL支援の要点1	脳血管障害のADL 介入法の基本的な考え方と方法①		
15	疾患に応じたADL支援の要点2 まとめ	脳血管障害のADL 介入法の基本的な考え方と方法② まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学 日常生活活動・社会生活 行為学 (医学書院)		期末試験 課題・レポート	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動学Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
疾患により、日常生活活動がどのように影響を受けるか理解する クライアントの日常生活を模擬的に実施し特徴を理解する 問題点に基づいて作業療法介入計画を立案し、実施のシュミレーションをする				
授業終了時の到達目標				
日常生活における問題点を整理できる 基本的なADL介入計画を立案し、模擬的に実施できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院や施設での作業療法経験を活かし、日常生活活動に求められる要素について実践的な考え方を身につけられるよう指導していく。		
時間外に必要な学修				
教科書を確認すること。評価に関しては該当範囲のADL I を復習すること。				
回	テーマ	内容		
1	活動能力障害に対する治療的考え方 1	評価～目標、プログラムの流れ		
2	活動能力障害に対する治療的考え方 2	事例検討		
3	ADL 1	食事活動のアプローチ		
4	ADL 2	整容活動のアプローチ		
5	ADL 3	更衣活動のアプローチ		
6	ADL 4	排泄活動のアプローチ		
7	ADL 5	入浴活動のアプローチ		
8	IADL 1	家事活動のアプローチ		
9	IADL 2	調理実習		
10	IADL 3	調理実習振り返り		
11	事例検討 1	グループによる事例検討		
12	事例検討 2	グループによる事例検討		
13	事例検討 3	グループによる事例検討、発表		
14	事例検討 4	発表		
15	事例検討 5 まとめ	発表 まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書) 標準作業療法学 日常生活活動学・社会生活行為学(医学書院) 他、資料		期末試験 実習・実技評価 課題・レポート	80% 10% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢学		作業療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
切断者とその家族が、安心かつ安全な日常生活が送れるように支援するための知識や技術を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・切断についての基本的知識、治療方法、作業療法について理解する</li> <li>・義肢における作業療法の役割について理解する</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
授業内容を振り返りポイントを復習する。				
回	テーマ	内 容		
1	切断	切断者の現状 切断部位の選択 切断原因疾患を知り予後学ぶ		
2	切断	切断術 疼痛の特徴と評価		
3	切断	切断者のリハビリテーション 断端訓練と日常生活指導		
4	下肢切断	下肢切断の現状と療法		
5	義足	臨床場面でよくみる義足の種類 アライメントなど必要な知識の学習		
6	義足	臨床場面でよくみる義足の種類 アライメントなど必要な知識の学習		
7	義手	義手の支給制度 義手の構造・部品		
8	前腕義手	前腕義手の特徴		
9	前腕義手	チェックアウト 事例紹介		
10	上腕義手	上腕義手の特徴 チェックアウト		
11	上腕義手	事例紹介 肩・肘・手義手の特徴		
12	義手訓練	義手装着訓練		
13	電動義手	筋電義手の特徴と訓練		
14	電動義手	筋電義手の訓練方法		
15	まとめ	OTに必要な義手知識		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・義肢学(医歯薬出版株式会社)</li> <li>・義肢装具のチェックポイント(医学書院)ほか</li> </ul>		期末試験	100%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
装具学実習		作業療法学科/2年	2020/後期	講義・実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
適応疾患の知識を含め、装具の種類・装具療法を理解した上で、作成に必要な基礎知識を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
適切な装具の選択ができ、スプリント作製により、手順・チェックアウト・訓練の実際を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
疾患の復習をしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	装具学概論	装具の定義・歴史・目的・分類・制度		
2	装具概論	解剖学の復習		
3	スプリントの基礎知識	装具に必用な基礎知識		
4	上肢装具	上肢装具総論		
5	上肢装具	指装具の適応と機構		
6	上肢装具	装具作成(バディー セーフティーピン 8の字他)		
7	上肢装具	手部指装具の適応と機構 事例紹介		
8	上肢装具	装具作成(RA)		
9	上肢装具	手関節装具の適応と機構 事例紹介		
10	上肢装具	装具作成(掌側・背側用)		
11	上肢装具	対立装具の適応と機構 事例紹介		
12	上肢装具	装具作成(短対立装具)		
13	上肢装具	把持装具 症例紹介		
14	上肢装具	装具作成(手関節駆動式)		

回	テーマ	内 容		
15	上肢装具	肩肘装具		
16	上肢装具	肩関節・肘関節疾患		
17	下肢装具	下肢切断		
18	下肢装具	下肢装具の特徴		
19	下肢装具	CVAにおける装具療法		
20	下肢装具	CVAにおける装具療法		
21	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（骨折・熱傷）		
22	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（腱損傷・CVA）		
23	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（RA・末梢神経損傷）		
24	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（脊髄損傷）		
25	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（肩障害）		
26	スプリント作成	作成上の知識の確認		
27	スプリント作成実習	症状にあわせた装具作成		
28	スプリント作成実習	症状にあわせた装具作成		
29	OTの役割	OTの役割		
30	まとめ	事例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・装具学（医歯薬出版）</li> <li>・ハンドセラピー（メディカルプレス）</li> <li>・装具作業療法入門（医歯薬出版）</li> <li>・ハンドセラピー入門（三輪書店）</li> <li>・各ジャーナル</li> </ul>		期末試験 実習・実技評価	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動作分析セミナー I		作業療法学科/2年	2020/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・動作の観察を通して動きを分析し、動作から生じる原因を考察する。</li> <li>・健常者の動きとバリエーションを理解し、他者と比較を行う。</li> <li>・疾患による動作の影響を観察、分析を行う。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察した動作を「説明」し、「記載」できる。</li> <li>・動作に影響を及ぼす身体的、物理的、環境的作用を理解する。</li> <li>・得られた情報を「分析」(考察)できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
使用テキストならびに運動学と日常生活活動学のテキストを使って予習復習を行うこと。				
回	テーマ	内容		
1	動作分析の総論 1	動作分析の目的・方法・着眼点 力学的基礎		
2	動作分析の総論 2	健常者の動き 健常者の動きのバリエーション		
3	動作分析の総論 3	姿勢の見方		
4	起居動作 1	寝返り、起き上がり動作の分析(観察、計測等)		
5	起居動作 2	寝返り、起き上がり動作の分析発表		
6	起居動作 3	立ち上がり、移乗動作の分析(観察、計測等)		
7	起居・移動動作 1	歩行(靴の把持)分析		
8	起居・移動動作 2	立ち上がり、移乗動作、歩行分析の発表		
9	更衣動作 1	更衣動作の分析		
10	更衣動作 2	更衣動作の分析発表		
11	トイレ動作	トイレ動作の分析と発表		
12	入浴動作	入浴動作の分析と発表		
13	買い物・調理動作 1	買い物、調理動作の分析		
14	買い物・調理動作 2	買い物、調理動作の分析発表		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動作分析 臨床活用講座 (メジカルビュー)		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法治療応用学		作業療法学科/2年	2020/後期	講義・実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志、外部講師
授業の概要				
作業療法の各分野において、より専門的知識と技術を深める。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>各作業療法分野における治療内容について他者に説明することができる。</li> <li>各分野の対象者及びその介助者に対する訓練・指導・援助内容の立案ができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの病院での作業療法経験を用いて、治療の実技について指導する。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> <li>予習: 各疾患の概要について事前に学習しておく。</li> <li>復習: 配布資料を参考に、学んだ知識と技術について振り返る。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	脳血管疾患の作業療法1	脳血管疾患の特徴の説明		
2	脳血管疾患の作業療法2	片麻痺に対する治療について		
3	脳血管疾患の作業療法3	高次脳機能障害の治療について		
4	生活行為向上マネジメント1	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の概要		
5	生活行為向上マネジメント2	MTDLPを用いた事例検討 1		
6	生活行為向上マネジメント3	MTDLPを用いた事例検討 2 個人ワーク・グループワーク 発表		
7	大腿骨近位部骨折	大腿骨頸部骨折の評価、プログラム 大腿骨転子部骨折の評価、プログラム		
8	腱板断裂・肩関節周囲炎	評価～治療のながれ、事例検討		
9	発達障害	発達障害の特徴とプログラム		
10	物理療法1	物理療法の概要		
11	物理療法2	実習		
12	脊髄損傷の作業療法1	脊髄損傷の特徴		
13	脊髄損傷の作業療法2	脊髄損傷の作業療法の流れ		
14	脊髄損傷の作業療法3	実習1		
15	脊髄損傷の作業療法4	実習2		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント(配布)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活環境論		作業療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
・ 障害者・高齢者を取りまく生活環境について、現状の問題点を抽出するための知識、技術を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
・ 障害者・高齢者を取り巻く生活環境について現状の問題点を抽出し、そこから今後の課題について考察できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生がイメージしやすいような授業の展開を実施する。		
時間外に必要な学修				
フィールド調査を行うための計画、実習、フィードバックを中心に授業を展開する [事前準備]住環境について、授業全体を通し事前に予習を行う				
回	テーマ		内容	
1	・ 総論 ・ バリアフリーとユニバーサルデザイン		・ バリアフリーとユニバーサルデザインについて	
2	・ 障害者総合支援法 ・ 社会保障制度		・ ハートビル法・交通バリアフリー法・バリアフリー新法 ・ 障害者総合支援法 ・ 社会保障制度	
3	住環境について (在宅、施設での生活場面) 1	1	・ 住環境(入院、在宅、各施設)の種類や違い、 メリット・デメリット	
4	住環境について (在宅、施設での生活場面) 2	2	・ 住環境(入院、在宅、各施設)の種類や違い、 メリット・デメリット	
5	介護保険(住環境、福祉用具) 住環境整備の考え方と進め方 1	1	・ 介護保険下における住宅改修の進め方を理解 ・ 住環境整備におけるOTの役割と姿勢	
6	住環境整備の考え方と進め方 2	2	・ 移動補助具使用時の有効幅 ・ ADL場面での基本的な住宅改修方法	
7	住環境整備の考え方と進め方 (実技)	1	移動補助具(歩行器、車椅子、杖)使用時の有効幅の確認	
8	フィールド調査 1	1	課題提示: 地域の場所を調査 計画 1	
9	フィールド調査 2	2	計画 2 シミュレーション	
10	フィールド調査 3	3	実施 1	
11	フィールド調査 4	4	実施 2	
12	フィールド調査 5	5	振り返りとまとめ	
13	フィールド調査 6	6	発表準備	
14	フィールド調査 7	7	発表	
15	生活環境論総括・テストに向けて		生活環境論のポイント復習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書) OT・PTのための住環境整備論(三輪書店)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域作業療法学		作業療学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
地域社会での保健・医療・福祉について理解し、作業療法を必要としている人によりよい作業療法を提供できるようにする				
授業終了時の到達目標				
地域作業療法について説明でき、他職種との連携、課題について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を活かし、地域での作業療法について指導する		
時間外に必要な学修				
次回の範囲についてテキストを確認する				
回	テーマ	内容		
1	地域作業療法学総論 地域医療について	地域医療について考える 地域リハビリテーションの定義		
2	地域リハビリテーションの変遷について理解する	リハビリテーションの変遷、地域リハビリテーションの変遷とこれからについて		
3	地域作業療法の内容を理解する①	リハビリテーション、ノーマライゼーション、エンパワメント、CBRについて理解する		
4	地域作業療法の内容を理解する②	作業療法士としての地域のとらえ方、作業療法5ヵ年計画について学ぶ		
5	生活について考える 作業療法の役割、生活の組み立て	生活障害について 作業療法の関わり、生活の組み立てを事例をあげ検討する		
6	地域作業療法に必要な知識(家族への取り組み、福祉用具)	地域で活動する作業療法士が必要とする知識、技術を学ぶ 家族への関わり、福祉用具導入時の留意点		
7	介護保険について	地域に必要な介護保険の知識の再復習する		
8	ケアプランの立案①	介護保険の知識をもとに模擬的にケアプランを立案する		
9	ケアプランの立案②	介護保険の知識をもとに模擬的にケアプランを立案する		
10	在宅ケアにおける作業療法	作業療法による介入を事例をあげて検討する		
11	地域ケア会議について	作業療法による介入を事例をあげて検討する		
12	地域作業療法の実際	訪問リハビリでの実際の場面を聴き、役割を学ぶ		
13	障害を持つ人が実際、地域でどのように生活しているか①	地域で生活している方の講演を聴き、地域で暮らすことについて学ぶ		
14	障害を持つ人が実際、地域でどのように生活しているか②	地域で生活している方の講演を聴き、地域で暮らすことについて学ぶ		
15	地域作業療法学のポイント、まとめ、テストに向けて	テストに向けてのまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
地域作業療法学(医学書院) プリント配布		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉用具学 I		作業療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICF(国際生活機能分類)を理解し、環境因子が生活面にどのように影響するのか理解する。</li> <li>・ 障害者の身体機能、生活環境、経済力、社会資源などを幅広い適合性を正確に評価できる。</li> <li>・ 排泄関連用具・入浴関連用具・コミュニケーション関連用具・更衣や整容関連用具・食事関連用具・自助具について理解する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者、介助者、家族に対象と福祉用具の情報を的確に伝えることができる。</li> <li>・ 適合性を評価して上で、福祉用具を選定し、導入することができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験。臨床での福祉用具の作成、使用経験を活かし、学生にイメージしやすい授業展開を行う。		
時間外に必要な学修				
テキストを使用したの予習を行う。				
回	テーマ	内容		
1	福祉用具の定義と介護保険の福祉用具貸与・購入(制度)について	オリエンテーション 福祉用具の定義 介護保険制度の福祉用具		
2	排泄関連用具の説明①	排泄関連用具について 排泄関連用具の選定について		
3	排泄関連用具の説明②	排泄関連用具の適応や長所短所など		
4	排泄関連用具の説明③	排泄関連用具の特徴などについてグループで発表		
5	排泄関連用具の選定④	事例に対する排泄関連用具の選定について		
6	入浴関連用具について①	入浴関連用具: バスボード、シャワーチェア、シャワーキャリー、浴槽用手すり など		
7	入浴関連用具について②	障害別に適応した入浴関連用具 福祉用具や住宅改修に照らし合わせた介助法		
8	コミュニケーション機器と環境制御装置について	コミュニケーション機器: トーキングエイド、文字盤、メッセージボード など		
9	高齢者・障害者の衣服①	高齢者・障害者の衣服について 説明とグループ内での検討		
10	高齢者・障害者の衣服②	前回検討した衣服に関する改良・工夫についての発表・報告		
11	自助具について	説明と自助具の紹介 自助具製作に向けての説明		
12	自助具の製作作業①	各自が考案した自助具の製作		
13	自助具の製作作業②	レジュメの作成 発表準備		
14	製作した自助具の発表①	制作した自助具についてレジュメをもとに各自発表		
15	製作した自助具の発表② まとめ	発表の続き まとめ 試験について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
福祉用具プランナーテキスト		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉用具学Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移乗・移動関連用具及び作業療法場面で比較的良く使われる治療器具について学ぶ。</li> <li>・ 対象者の障害、ニーズに応じた機器の選択・調整が出来る。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象者の障害に合わせて杖または車椅子の選定が行え、その使用方法や注意点を指導する事が出来る</li> <li>・ 各治療器具の名称、目的の違いによる使用方法や注意事項などを説明する事が出来る。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験。臨床での福祉用具の作成、使用経験を活かし、学生にイメージしやすい授業展開を行う。		
時間外に必要な学修				
テキストを使用しての予習を行う。				
回	テーマ	内容		
1	移動関連用具について①	杖の種類、選定、調整、使用方法		
2	移動関連用具について②	シルバーカー、歩行器の特徴、使用方法		
3	車椅子について①	車椅子の種類、名称、特徴、使用方法、メンテナンス		
4	車椅子について②	座位に求められる機能		
5	移乗関連機器	トランスファーボード、リフト、スライディングシート		
6	シーティング①	シーティングとは シーティングの条件・目的		
7	シーティング②	車いす適合 シートクッションの調整 バックレスト調整		
8	シーティング③	車いす調整の流れ 車いすと環境 車いす駆動		
9	シーティング④	スロープ 事例 実習		
10	褥瘡予防関連用具について	マットレスの特徴 クッション		
11	ポジショニング①	ポジショニングとは		
12	ポジショニング②	姿勢の特徴と理解 楽な姿勢とは		
13	ポジショニング③	ポジショニングの実践 クッションの素材について		
14	治療器具	各種治療器具について 実習		
15	まとめ	授業のまとめ 試験について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
参考文献 福祉用具プランナーテキスト(財団法人テクノエイド協会)		期末試験	100%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習 I		作業療法学科/2年	2020/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	10回	2単位(90時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 記録・報告をすることができる。 4. 管理・運営について理解することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
翌日の実習計画を踏まえ、教科書や資料などを参考に事前準備を行う				
実習内容				
第2学年に行われる臨床場面での実習で、対象者の心身諸機能・日常生活活動等の生活面・対人交流等の社会面を把握する評価の実施及び作業療法士の役割と機能を部分的に実践する実習である。 前期に行われる評価実習を評価実習 I、後期に行われる評価実習を評価実習 II としている。 評価実習 I は、カリキュラムの進行状況から、評価の目的の把握や各検査項目を確実にこなすなど、基礎的なことを確実にを行うことに重点がおかれる。				
実習学生としての役割と責任				
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。				
2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。				
3) 『デイリーノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
4) 『ケースノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
5) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。				
6) 各施設での実習終了後、学校でケースレポートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・実習の手引き ・学生の心得 ・配布資料		総括判定	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習Ⅱ		作業療法学科/2年	2020/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	10回	2単位(90時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。</li> <li>2. 対象者の全体像を把握できる。</li> <li>3. 対象者の作業療法計画を立案できる。</li> <li>4. 記録・報告をすることができる。</li> <li>5. 管理・運営について理解することができる。</li> </ol>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
翌日の実習計画を踏まえ、教科書や資料などを参考に事前準備を行う。				
実習内容				
<p>第2学年に行われる臨床場面での実習で、対象者の心身諸機能・日常生活活動等の生活面・対人交流等の社会面を把握する評価の実施及び作業療法士の役割と機能を部分的に実践する実習をいう。前期に行われる評価実習を評価実習Ⅰ、後期に行われる評価実習を評価実習Ⅱとしている。評価実習Ⅱは、評価実習Ⅰの経験を踏まえ、評価結果の統合と解釈を行い、治療計画立案までが目標となる。</p> <p>実習学生としての役割と責任</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。 また、評価結果統合と解釈(考察)を行い、目標の設定と治療プログラムを立案する。</li> <li>2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。</li> <li>3) 『デイリーノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。</li> <li>4) 『ケースノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。</li> <li>5) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。</li> <li>6) 各施設での実習終了後、学校でケースレポートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。</li> </ol>				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の手引き</li> <li>・学生の心得</li> <li>・配布資料</li> <li>・自己学習ノート</li> </ul>		総括判定	100%	